

向テ航進スルハ敵ヲ惑ハシメカ爲シ一ノ機  
 動ヲ行フモノト云フニ依リ之ヲ説明スルヲ得ハ  
 カリキ然チサランニハ石炭ノ補充ハ徒ニ船隊ヲ  
 レテ危険ニ瀕セシムルモノト云フヘシ何トヤレ  
 ハ船隊ハ既ニ日本ノ海面ニ浮ヒ居リテ何時敵カ  
 突然現出スルヤモ測リ難ヤリシヲ以テテリ實際  
 此日モ刻々戦闘ヲ期待スヘシトノ命令ハ船隊ニ  
 下リタリ然ルニ石炭ノ補充ハ無事完了シ而シテ  
 船隊ハ東ニ向ハスシテ西ニ向テ其ノ航進ヲ継続  
 シタリ

フエルクエルガム提督ノ死去

五月十日(二十三日)夕方フエルクエルガム提督ハ死去

セリ然レトモ之ヲ艦隊及加之諸將官ニモ知ラシ  
ムルコトナク提督ノ座乗セシ軍艦ハ依然司令旗  
ヲ掲揚シアリタリ

五月十一日(二十四日)

五月十一日(二十四日)艦隊ハ既ニ普通ノ通商航路  
ヲ走り屢外國船ニ出會シ而シテ今ヤ敵ハ艦隊ニ  
就テ確報ヲ聞カサル一カラカリニナリ

正午頃艦隊ハチエリサン群島ト齋頭面ノ處ニア  
リタリ翌日即チ五月十二日(二十五日)其ノ揚子江  
口ト齋頭ノ處ニ達シニ後運送船ノ一大部分ハ上  
海ニ赴クニテ命令ヲ受テ放タレタリ及  
チエリサン揚子江口マテ之ヲ護送セサルヘカ  
ラカリキ此兩船ハ其ノ後再ニ艦隊ニ合スヘカラ

0387

スレテ一定ノ海面ニ向テ迎進スルヲ等ナリキ而  
シテ後艦隊ハ針路ヲ變シ對馬海峡ノ方向ニ向ヒ  
タリ

此ノ如クシテ艦隊ハ其ノ東清海ヲ航進スルニ際  
シ基レテ西方ニ向テ鉤形ヲ描キタリ是レ何等ノ  
目的ニ出テモヤ何等ノ情報ヲ得ヒト欲セシカ  
為ノヤリシヤ膠州灣及上海ニハ我國ノ代理官駐  
在シ是等ノ者ハ艦隊ニ向テ進ミ来ルヲ得ヘカリ  
ヤ是等ノ人ヲ今ニ艦隊ハ又協同作戰ノ為ノ最後  
ノ規定ヲ浦潮ニ送ヒテ得ヘカリキ

浦潮ハ如何ニシテ艦隊ヲ援助スル  
ヲ得ヘカリシカ

然ルニ今ヤ浦潮トハ何等ノ連絡存スルコトナリ

廿七八年海戰史

同地ニ於テハ何等ノ方法ヲ以テ艦隊ノ動作ニ  
 與ラントノ考案<sup>考案</sup>ヲ有セサルコト明カナリトス  
 是レ同地ノ戦闘力ノ振ハカクニ基キニヤモ測  
 リ難カリキ然レトモ實際ニアリテモ其状態ハ真  
 ニ<sup>二</sup>隣<sup>一</sup>ニ<sup>二</sup>迷<sup>一</sup>ヘタリグロモボイ<sup>レ</sup>カ八月一日(十四日)  
 ノ海戦ニ於テ被リタル損害ノ修理ヲ終リタルヤ  
 否ヤ滿潮ニハ大ナル排水噸量ヲ有スル諸種ノ軍  
 用運送船ノアリタルニモ拘ラヌ前記ノ軍艦ハ試  
 航ノ為メ兵站部隊ニ屬スル七百名ノ兵員ヲ載セ  
 波西圖灣ニ赴クヘキコトヲナリタリイエツメン  
 提督ハ災變ノ襲フ所トナリタリ其ボガ<sup>ボガ</sup>千<sup>千</sup>ルニ<sup>ニ</sup>機  
 レ同地ニ赴キレトキ同レク被ハ又モヤ<sup>ヤ</sup>グ<sup>グ</sup>ロ<sup>ロ</sup>モ<sup>モ</sup>ボ  
 イ<sup>イ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>率<sup>率</sup>テ一岩礁ニ觸レ而レテ此際艦底ハ大ナル

0389



破ロヲ生シタリ  
 幸ニモ同艦ハ浦潮ニ歸ルコトヲ得タリ然レトモ  
 同地ニ於テ必ス之ヲ船渠ニ入レサルヘカラサリ  
 日然ルニ尚ホカチルハ此船渠ニアリテ未タ其ノ  
 修理ヲ了ラサリ是ニ於テカボガチルヲ船渠ヨ  
 リ引出サハルヘカラサリ此際修理ハ其ノ成績  
 不良ニシテ甚シク浸水ヒサレコト明カトナリタ  
 リ更ニ此艦ヲ修理スルカ為メハ「グロモボ」ノ  
 作業ヲ完了スルヲ待テサルヘカラサリ  
 潜航艇ハ次第ニ浦潮ニ到着セシキ第一ニ冬季ノ  
 為メ演習航行ヲ行フコト能ハス第二ニ其ノ急速  
 送致セラレシカ為メ一二ノ艇ハ其ノ乗組員ヲ伴  
 ハスシテ到着セタリ

廿七八年海戦史

海軍

0390

今下浦潮ニハ有為ニシラ用意周到ナル指揮官ナ  
 リリニカ為ノ第二艦隊ノ動作ト伴ヒ潛航艇隊ヲ  
 シラ作戦ニ從事セシムヘキコトハ殆ト之ヲ期ス  
 ン能ハサリキ  
 又口モボリハ五月十日(二十三日)毎ニ戦闘能力ヲ  
 失セタリ三月中殊ニ浦潮ノ封鎖ノ為ノ二隻ノ水  
 雷船カ函館ニ於テ機装セラレタリトノ情報浦潮  
 ニ達レタリ  
 四月二十七日(五月十日)一二ノ展望所ハ二隻ノ敵  
 船ヲ望ミタル音ヲ報告セリ然レトモ此汽船カ別  
 スコルド島ヨリリムスキトコトハサコフ島マラニ  
 重ニ水雷ヲ敷設シタルコトハ何人モ之ヲ認めサ  
 リシモノ、如カリキ是ニ於テカ日本艦隊ハ我軍

0391

二艦隊カ未タ其ノ根據地ニ達セサルニ先タチ新  
 ニ最後ノ障碍物ヲ其ノ航路ニ設ケタリキ浦潮ニ  
 通スル海面ノ入口ニハ別ニ警戒設備ナカリキ然  
 ルニ幸ニモ五月八日(二十一日)一測量船ハリムス  
 キー、コルサコフ附近ニ於テ一浮流水雷ヲ発見シ  
 之ヲ同島ニ曳行キタリ是ニ於テカ始メテ我ハ日  
 水艦隊ノ水雷ノ敷設セルコトヲ感知セリ水雷ヲ  
 搜索スヘキ若干ノ小船ヲ伴ヒ唯浦潮ヲ距ル  
 三十五哩ノ海上ニ赴クヘキコト決セラレタリ  
 十日前第二艦隊カカムランヲ出發シタリトノ報  
 ヲ得タル後五月十日(二十三日)和エツセン提督ハ  
 浦潮ト無線電信ノ連絡ヲ試ミニシカ為メゴロモボ  
 イニ搭セラシテ出動セリ浦潮ニハ三百五十哩ノ距離

マテ電信ヲ送ル一キ装置設ケラレアリタリ提督  
 當初前文ノ小船ヲ伴ヒシカ其ノ後十二哩ヲ航  
 進セシ後何寺カノ原因ノ為メ之ヲ放遣セリ然ル  
 ニ「グロモボ」ハ南五哩ヲ航進セシ後日本ノ一水  
 雷ニ衝突シ船尾ニ損傷ヲ被リタリ損傷ハ格段ニ  
 危険ノモノナラサリシカ引返サハルヘカラサル  
 ニ至リ為メニ勿論第一艦隊ニ向テ進ムコト能ハ  
 サリキ此ノ如クシテ今下浦潮ニハ軍ニ尚一隻ノ  
 損傷モサルニ遊洋艦「コシ」及七隻ノ水雷艇アルニ  
 過キナリキ

艦隊ハ何故ニ此ノ如ク清國海岸ニ

迫ツキシカ

ロビエスト少三スキ一提督ハ五月十二日二十五

0393

日)揚子江ト齊頭面ノ處ニ達セシトキ前文ノ事實  
 ニ就キ聞クコトヲ得ヘカリキ然レトモ單ニ何事  
 ヲノ協同動作ノ企テラレタル場合ニ於テノ此  
 情報ハ彼ニ取リ必要ノモノナリトナルニ然レ  
 トモ實際工此事ヲカリエテ以テ此ノ如ク海岸ニ  
 迫ツキレハ何等ノ目的ヲ有セザリシナリ第一  
 ハ此海岸ノ迫傍ニ日本ノ水雷艇隊ノ潜伏シヤル  
 ヤセ測リ難ク(チユーサン)群島ノ迫傍ニ第二ニハ  
 今ヤ普通ノ通商航路ヲ取ラサルヘカラサリエテ  
 以テ無益ニモハ層早ク發見セラルルノ危険ニ臨  
 マサレハハカラサリシナリ  
 艦隊ヲ此ノ如ク大鈎形ヲ描キタルハ運送船ヲ護  
 送セシカ為メナリト云フ者アリ五月十二日(二十

五月午前九時運送船ハ艦隊ヲ放レ而シテ揚子江  
 口ニテ軍ニ尙極距離ヲ通過スヘキアリシヤ提督ハ  
 二隻ノ補助巡洋艦ニ之ヲ護送ヲ命ジ而シテ尙信  
 號ヲ以テ敵ノ巡洋艦ニ對シテ運送船ヲ掩護スヘキ  
 コトヲ命セリ  
 然レトモ茲ニ記セサルヘカヲサレハ補助巡洋艦  
 ハ全ク之ニ不適當ヤリト云フコト是レナリ蓋  
 シ前記ノ信號ハ軍ニ運送船ヲ安心セシメシカ爲  
 ス與ヘラレシモノアルヘシ  
 運送船ヲ護送シ之カ代リニ他ニ不利益ヲ招クハ  
 艦隊ニ取リ果シテ適當ノ所ナリニヤト云フニ決  
 シテ然ラサルヘシ放遣セテタル運送船ハ既に  
 水及緊要ノモノナラサルヲ以テ之カ爲メニ他ニ

0395

何事カノ危険ヲ冒スハ極ノヲ當テ得サル所ナリ

キ

運送船及補助巡洋艦ハ如何ニ之ヲ

使用セサルハカラサリシカ

之ニ及シ若シ艦隊カ日本ヲ廻航セシコトヲ企テ

シテラニニハ是等ノ部署及運動ハ皆極メテ重大

ノ意義ヲ有シタリ艦隊ノ支那海ニ来リ清國海岸

ニ現ハレ此處ヨリ對馬海峡ニ向テ針路ヲ取リシ

コトハ此場合ニ於テハ敵ヲシテ艦隊カ此般路ヲ

取ルハキモノト思惟セシメタルニ又運送船

カ上海ニ航進セルニ依リ日本艦隊ハ一層此推測

ヲ固クセシタルニ何レトヤレハ實際對馬海峡

ニ向テ進ミシ(即チ捷路ヲ撰ビシ)ヲラニニハ運送

廿七八年海戰史

海軍

0396

船ハ今ヤ無用ノ長物タルニ遇キサルニキヲ以テ  
 ナリ蓋レ一二ノ運送船ハ其ノ軍需品ヲ安全ノ場  
 所ニ移レタル後此ノ如キ洋動ノ爲ノ平然之ヲ獲  
 牲ニ供スルヲ得ヘカリキ分派セラレタル補助巡  
 洋艦ハ同時ニ對馬海峡ニ向テ示威運動ヲ行ヒ夜  
 間爲ニ得ル限リ近ク此地ニ接ヒ而シテ多數ノ無  
 線電話ニ依リ自己ノ存在ヲ知ラシメシナランニ  
 ハ成果ノ望ハ一層多大ナリシヲルニ此時ニ至  
 リテハ東郷提督ト難モ恐リハ引續キ晏然馬山浦  
 ニアル能ハクシテ戦々競々トシテ數日ヲ海上ニ  
 送ラサルヲ得サリニナルニ  
 加之此洋動ハ補助巡洋艦ニ取リ毫モ危険ノ虞ナ  
 カリシナニ其ノ航海力優良ニ其ノ速力大ニ

0397



其ノ石炭ノ準備豊富アリシヲ以テ巡洋艦ハ毫モ  
日本巡洋艦ヲ恐レ、ノ要テク之日リ免ル、ヲ得  
ハカリキ此動作ノ後補助巡洋艦ハ再ヒ豫メ約束  
セシ地點例ハ小笠原群島附近ノ如キ處ニ於テ艦  
隊ニ合スルコトヲ得ヘカリキ

若シ對馬海峡ヲ通過セシハ如何ナ  
ル措置ヲ取ラザルヘカラザリシカ

然レトモ艦隊カ對馬海峡ヲ通過スル航路ヲ撰ビ  
シカ爲メ前記ノ事タル全ク他ノ意義ヲ有スルコ  
ト至リタリ運送船ノ上海ニ現出シタルハ日本人ヲ  
レテ艦隊ヲ恰モ此航路ヲ取ルヘキコトヲ推定セ  
シメタリ

若シ對馬海峡ニ向テ航進セシコトヲ企テシテラ

シニハ敵ヲレテ艦隊カ日本ヲ廻航スルモノト信  
 ヲシメノニカ爲ノアラエル手段ヲ試ミサルヘカラ  
 サリキ即チ艦隊ハ其ノ北部支那海ニ進ミテ後晝  
 間日本ノ集島ノ視界ニ於テ太平洋ニ向テ却走シ  
 而シテ後夜間琉球群島ノ南部及中部間ノ大空隙  
 ヲ經テ支那海ニ引返シ此處ニ於テ一二日間通商  
 航路外ノ一地點ニ留マルヲ得ヘカリトヤリ斯ル  
 間ニ對馬海峡ノ通過ニ際シ最早之ヲ要ヒカリシ  
 運送船ハ大連カヲ以テ津輕海峡ニ向テ進マレノ  
 中ニハカラカリキ此際運送船ハ時々日本海岸ニ  
 迫ツテ断エテ多數ノ電話ヲ發スルヲ要セリ而シ  
 テ後運送船ハ夜間津輕海峡ニ達シ突破ヲ試ミサ  
 スヘカラカリキ勿論運送船ハ水雷艇及若干ノ小

0399

艦ヨリ攻撃セラルルノ危険アリレカ水雷攻撃ノ  
 効力甚ク微々タルコトハ戦後ノ經過中既ニ充分  
 ニ示サレタル所ナリヒタ以テ敢テ之ヲ恐ルルノ  
 要ナカリキ又小艦ニ對スル防禦ノ爲メハ例ハ  
 ウラゾミルモノマツハ及ドモトリドンスコト若  
 ヲハサヒモフノ如キモノヲ運送船ニ附スルヲ得  
 ヘカリキ是等軍艦ハ會戰中莫モ利益ヲ與フヘカ  
 ラスニテ巡洋艦トレテモ其ノ効用小ナルモノナ  
 リキ加之是等軍艦ノ存在ハ敵ヲヒラ艦隊カ津輕  
 海峡ニ進ムトノ傳認ヲヒラ益々固フヒラレキハ  
 一ニ  
 運送船ノ一部ハ兎ニ角喪失ニ歸ヒタルヘシ然  
 レトモ此場合ニ於テ喪失ハ甚ク重要ノ事ナラス

レテ且幸ニモ逸走セ入運送船ハ浦潮ニ違ヒ而シ  
 テ艦隊ノ將來ノ根據地タル同地ニ具ノ軍需品ノ  
 殘餘ヲ致スコトヲ得一カリキ若シ艦隊ニシテ突  
 破ヲ遂行セシナラシニハ此ノ如クシテ前記ノ運  
 送船ハ艦隊ニモ亦最モ大ナル利便ヲ供ヒタリ是  
 ニ及シ若シ上海ニ送ラレ若シハ艦隊ト共ニ對馬  
 海峡ニ進マシニハ運送船ハ必スヤ滅亡スヘキモ  
 ノナリキ第一ノ場合ニハ即チ抑留セラレ第二ノ  
 場合ニハ無事ニ通過スルハ到底不能ノ所ナリキ  
 艦隊ノ津輕海峡ニ現出セルニ依リ惹起スヘキ感  
 想ヲ高メシメシカ為メニハ補助巡洋艦ノ一隊ヲ  
 レテ對馬海峡ニ向テ示威運動ヲ行ハシムルヲ得  
 一カリキ此場合ニ於テハ是等補助巡洋艦ハ日本

0401

迎洋艦ヨリ明カニ認メラレシカ爲メ畫間對馬海  
 峽ノ前方ニ現ハル、ヲ要セリ此ノ如クモ洋動  
 ニ関スル感想ハ必ズヤ惹起セラレタリ今ヤ若シ  
 此示威運動ニ先々チ東郷提督カ敵カ日本ノ東海  
 岸ニ沿フテ走リ此處ニ敵ノ軍艦ハ認メラレタリ  
 トノ情報ヲ得尋テ我クモナク前託ノ示威運動ヲ  
 知リモナラレニハ(同時ニ彼ハ津輕海峡ニ敵艦ノ  
 現出セルコトヲ知リシナルニシテ)彼ハ恐クハ殆ト  
 真相ヲ明カニスルコト能ハスレテ最後ノ瞬間ニ  
 至ルマテ悠然馬山浦ニ留マル能ハサリシナルハ  
 一旦對馬海峡ヲ通スル航路ヲ唯一可能ノモノト  
 認メタル以上ハ我艦隊ハ補助迎洋艦カ伴動ヲ行

七十九三四日ノ後總テノ運送船ヲ伴ハスニテ此  
 海峡ノ突破ヲ試ムルヲ得ヘカリキ  
 勿論總テノ是等洋動ハ失敗ニ歸セシヤモ亦測ル  
 ヘカラサリキ然レトモ此時艦隊ノ得タル結果ハ  
 其ノ實際撰定セル航路ニ於テ充分ナル覺悟ヲ以  
 テ一直線ニ違ヒタル最終目標ト異ヲラサリキ而  
 モ此場合ニ於テハ成果ニ對スル望ハ一層小ナリ  
 キ何トアレハ艦隊ハ運送船ノ為ノ其ノ自由ヲ束  
 縛セラレ而シテ突破ニ際レ艦隊ノ喪失ハ必然ノ  
 所ナリシヲ以テナリ然ラハ其ノ困難ナル任務ヲ  
 容易ニモレカ為ノ何等カノ試ヲ企テニハ艦隊  
 ハ果シテ何物ヲ失ヒレカ然ルニ艦隊カ實際取リ  
 ムル方法ハ敵ヲシテ最モ其ノ目的ヲ達スルニ答

0403

易ナラレモタリ敵ハ艦隊カ五月十二日(二十五日)  
 支那海ヨリ對馬海峡ニ向テ針路ヲ取リタルコト  
 ラ知ラサルヲ得サキ而シテ運送船ノ上海ニ到  
 着セシハ一層此推定ヲ固クセシメタリ何トナレ  
 ハ運送船ナクシハ太平洋ノ航路ヲ取ル能ハサリ  
 レヲ以テナリ是ニ於テカ敵ハ悠然トシテ我艦隊  
 ヲ待ツコトヲ得タリ  
 然ルニ六隻ノ運送船ハ艦隊ノ煩累タリキ此中例  
 ハ「カムチヤツカ」コレ「及」イルツイ「及」ハ後ニ至リ  
 艦隊ノ速カニ影響ヲ及ホシタリ斯クシテ例ハ五  
 月十日(二十三日)「イルツイ」ハ信號ヲ以テ其ノ最  
 早九節半以上ノ速カヲ以テ進ムコト能ハサル旨  
 ヲ報告セリ是ニモ均ラス速カ小ナル軍艦ハ多サ

ノ戦闘力ヲ有シ一定ノ時間ハ獨立ニ作戰スルヲ  
 得必スシモ他隊ノ援助ヲ待ツヲ要セザリキ是ニ  
 及シ後漫クハ運送船ハ必スヤ滅亡ニ陥ルカ若ク  
 ハ艦隊ハ之ヲ為ノ具ノ遠カラ滅セザルハカラサ  
 リキ是ニ於テハ艦隊ハ之ヲ遺棄スヘキカ若クハ  
 掩護スヘキヲ要セリ是ヲ以テ是等運送船ヲ其ノ  
 儘艦隊ニ伴ヒタルハ甚ク解スヘカラサルト所ナリ  
 トス

補助巡洋艦ノ派遣

是ニ及ズ總テノ補助巡洋艦ヲ派遣スルハ艦隊ニ  
 取リ極メテ不利ノ所ナリキ斯クモ艦隊ハ自ラ  
 搜索隊ヲ失ヘリ此搜索隊ヤ其ノ航海力ヲ優良ナ  
 ヲ為ノ頗ル大ナル活動區域ヲ有スルモノナリ



エナリ此隊ハ遠ク之ヲ前方ニ進メ而シラ會戦間  
大ナル速力ヲ取ラシムルヲ得ヘカリキ是ニ於テ  
カ此隊ハ浦潮ニ向テ突破スルカ若クハ此軍成ラ  
サハドキハ一定ノ進路ヲ行ハシカ爲メ南方ニ向  
テ逃ハルノ望ツ有レタリ  
今ヤ吾人ハ艦隊ノ實際ノ動作ニ就キ述フル所ア  
ルヘシ

對馬海峽ノ追傍ニ於ケル航進列  
序

航進列序ハ軍ニ一變更ヲ加ヘラレタルノミニ  
テ運送船ハ二縱列ノ代リニ一縱列ヲ以テ軍艦ノ  
縱列間ニ於テ航進セリ夜間ノ爲メハ軍ニ外方  
ノ標識燈ヲ遮蔽スルヲ以テ異ナレリトナスノミ

ナリキ是ニ及ニ右縦列ハ赤色燈左縦列ハ綠色燈  
ヲ有セシメテ以テ敵ノ水雷艇ハ依然容易ニ急襲ヲ  
行ツテ得ヘカリキ

艦隊ノ對馬海峡前方ニ於ケル停  
止

艦隊ハ小ナル速カラ以テ走り其ノ速力ハ往々五  
節ヲ下リタリ五月十三日(二十六日)隊形變換ノ為  
メ長時間ヲ要シタリ金曜日且十三日ヲ以テ會戰  
ヲ始ムルコトヲ恐ルカ為メ故意ニ停止セリト  
信スル者艦隊内ニアリタリ

然レトモ此ノ如キ説ハ殆ト其ノ理由ナキ所ナリ  
トス若シ會戰ノ為メニ何等カノ日ヲ避ケサルハ  
カラスト信セシテラシニハ翌五月十四日(二十七

0407

日ハ恰モ祝日ナリシヲ以テ實ニ此ノ如ク日ナリ  
 シナルハレ然レトモ何人ト雖モ會戰ノ結果ヲ豫  
 見スルコトヲ得ニテ露國ノ海戰史ニハ此ノ如キ  
 祝日ニ行ヘル會戰ニ就キ不吉ナル記念存スル所  
 トス年七百六十年ヲウジゲニハ瑞典人ヲ  
 破リ以テカタリテ廿帝ノ即位記念日ヲ祝セシ  
 トヲ欲シロクニエニガハム附近ニ於テ瑞典艦隊  
 ヲ攻撃セシカ此際天候ハ攻撃ニ利ヲラス却テ敵  
 ノ便トスル所ナリシニモ拘ラス之ニ顧慮スルコ  
 トナカリキ之効結果露國艦隊ハ大敗北ヲ招キタ  
 リ  
 是ヲ以テ艦隊ノ停止セシハ一定ノ日ヲ撰擇セシ  
 カ爲メナリト認ムル能ハラルヘシ尚又會戰開始

ノ數時間前ニ於テ隊形變換ヲ行フモ殆ト實際ノ  
 利益アルコトヲ得サリキ蓋シ諸將官及艦長ヲシ  
 テ全体ノ團内ニ於テ獨立ニ動作シ得セシメレカ  
 為メ之ニ司令官ノ戰闘ニ関スル意圖ヲ示スヲ以  
 テ一層必要ノ所トナセシタルハシ然ルニ此事ナ  
 カリキ

單ニ浦潮ヲ以テ最終目標トナストノコト示サレ  
 タルニ過キサリキ人々ハ同地ニ達セシカ為メ必  
 スキ努力ヲサスルハカラサリキ尚茲ニ託スヘキハ  
 諸艦カ沿海州ノ海岸ニアル展望所ノ位置ヲ知ラ  
 グルカ為メ諸地點ヨリ浦潮ト連絡シ得ヘカリシ  
 コトヲ知ラサリシコト是ナリ

敵ニ関スル最初ノ情報

0409

無線電信ノ装置カ既一敵ノ存在セムコトヲ示セ  
 レトイ艦隊ハ尚隊形變換ヲ行ヒツ、アリタリ此  
 時艦隊ハ濟州島ノ經度ニ方リ同島ヲ距ル僅ニ三  
 十海里ノ處ニイリタリ  
 午後一時「スウオロフ」ヨリ信號アリタリ曰ク敵ノ  
 搜索艦ハ我煙ヲ認メ而シテ無線電信ヲ以テ盛ニ  
 相交通ス又曰ク「水夜敵」再三ノ水雷攻撃ヲ覺悟  
 セラルヘカラスト  
 「スウオロフ」於テハ敵ノ無線電信ニ就テ敵艦ノ  
 數ヲ推測セント試ミタルコト明カナリキ午後五  
 時與ヘテレタル信號ニ曰ク「無線電信ノ交通ニ就  
 キテ見ルニ七隻ノ敵艦カ我近傍ニ於テ互ニ交通  
 スルコト明カナリト故ノ兵力ヲ定ムルニ就キ此

廿七八年海戰史

海軍

ノ如キ方法ノ精確ナルヤハ大ニ疑ハカル一カラ  
 ス是ヲ以テ此ノ如キ方法ハ却テ状況ヲ不明ナラ  
 シムルモノ、如シ實際前記ノ諸報モ亦此處ニ此  
 ノ如ク強大ナル敵艦隊ノ存スルコトニ對シ毫モ  
 根據タルニ足ラザリキ無線電信ハ軍艦ヨリモ海  
 岸ノ哨所ヨリモ之ヲ發スルヲ得一カリシヤリ

戦闘ノ前夜ニ於ケル航進列序

艦隊ハ此夜水雷攻撃ヲ期待セサルヘカラサリシ  
 ニモ拘ラス(艦隊ハ對馬海峡ニ入り来リタリ)航進  
 列序ハ依然變スルコトナク標識燈ハ其ノ儘内側  
 ニ點セラレアリタリ

五月十四日(二十七日)敵ハ拂曉突然現出スルヲ得  
 一カヲキ汝リ天氣甚々朦朧ナリシニ於テオヤ是

0411

一モ拘ラス艦隊ハ三縦列ヲ以テ航進ヲ續行セリ  
前衛ハ依然一索タリトモ遠ク前方ニ進ノラルハ  
コトナク巡洋艦隊司令官ハ最大ナル雨巡洋艦ヲ  
幸リ縦列ノ後尾ニ於テ航進セリ

日本艦隊ノ搜索

午前五時先ツ一隻ノ南船頭ハ直ニ真ニ消失セ  
リ我艦隊ニ於テハ別ニ北南船ヲ意ニ介スルコト  
ナク何者ヲモレラ之ヲ追ハシムルコトナカリキ  
實際是レ補助巡洋艦信濃丸トシテ東郷提督ニ露  
國艦隊ノ迹接セルヲ報セルヤリ我ニ於テハ此  
時ヨリモテ日本諸搜索艦カ無線電信ニ依リ其ノ  
報告ヲ東郷提督ニ送レルコトヲ打算スルヲ得ヘ  
カリキ少ラルニ設ケラレアル強大ナル装置ノカ

依り無線電信ノ交通ヲ妨クルコト全然可能ノ  
 所ナリ然ルニ此ノ如キ無線電信ニ就キ目視ス  
 一カヲナル敵ノ兵力ヲ算定スルヲ得ヘシトノ極  
 メテ疑ハレキ利便ニ望ヲ屬シ前記ノ大利益ヲ抛  
 棄シタリ  
 シラルハ此無線電信ノ交通ヲ妨ケレコトニ就キ  
 認可ヲ請ヒシニ信號ヲ以テ敵ノ無線電信ノ交通  
 ハ之ヲ妨グヘカラストノ回答ヲ得タリ  
 午前六時第二装甲艦隊ハ右舷ニ方リ五十五乃至  
 六十網長(十乃至十一吉米)ノ距離ニ巡洋艦和泉ヲ  
 認めタリ此艦ハ我艦隊ト並行針路ヲ取り且同一  
 ノ速力ヲ以テ走りタリ我ニアリテハ敵艦カ我艦  
 隊ノ運動ヲ視察スルニ對シ是モ妨クル所ナカリ



レヲ以テ和泉ハ東郷提督ニ詳細ノ報告ヲナスコ  
 トヲ得ヘカリキ「スウオロフ」ヨリハ左ノ信號與ヘ  
 ラレタリ曰ク「第一及第二甲艦隊ハ射撃ヲ開始セ  
 ヲト然ルニ此事ナカリキ」前記敵艦ハ尚妨害ヲ受  
 クルコトナシ我艦隊ニ伴フコトヲ得タリ此際若  
 シ一二ノ巡洋艦（オレীগ）若クハ「アウロラ」ヲ派遣  
 セシメラレバハ和泉ヲ驅逐スルノミナラス  
 或ハ之ヲ追及シ大ナル損害ヲ與フルニ足リシナ  
 ルヘシ（第十三號附圖）  
 艦隊ノ正面前ノ状況ハ全ク不明ナリキ我ニアリ  
 ラハ軍ニ巡洋艦ヲ前方ニ進ムルコトナカリシノ  
 ミナラス午前八時十五分前衛諸艦（スウエーデン  
 ナ）「ウラアルマーズ」ヲ具ノ他ノ巡洋艦ニ亦位置

此ハ般進縱列ノ後尾ニ引下ケタリ(第十四號附圖)  
 斯ル間ニ日本巡洋艦ハ盛ニ動作セリ十一時ニサ  
 ミリ先々第一裝甲艦隊ノ左舷ニ方リ約七十網  
 長(一万二千八百米)ノ距離ニ戰艦鎮遠及巡洋艦松  
 島、嚴島及橋立ヨリ成ハ一隊現出シ接觸ヲ取リタ  
 リ其ノ後方ニハ尚第二ノ隊(巡洋艦笠置、千歲、新高  
 及對馬)認めラレタリ此隊ハ三十五乃至三十八網  
 長(六千四百乃至六千九百五十米)ノ距離マテ迄ソ  
 ンタリ  
 午前十時五十分艦隊スウオロフ力最モ我ヲ煩ハ  
 セル和泉ニ對シ十二吋(三十珊<sup>米</sup>)砲ヲ以テ一發  
 ヲ放フヘシトノ通知ヲ受ケタリ然レドモ遂ニ此  
 事ナヤリキ

0415

十一時十五分艦隊ハ一線ノ單縱陣ヲ形成セリ(第  
 十五號附圖)並置ヲ先頭トセリ敵ノ一隊ハ極メテ  
 近接シ来リ之ニ對峙セル我第三裝甲艦隊ハ切ニ  
 發射ノ命令ヲ待テタリ此時不意ニ「オレ」ヨリ  
 一發放タレタリ今ヤ砲長ヲ抑制スルコト殆ト  
 不能ノ所ニヒテ各艦ヨリ約三十發ノ不規則ナル  
 射撃放タレタリ是カ爲メ「スウ」オロフハ「彈藥」ヲ浪  
 費スヘカラストノ信號ヲ與ヘタリ  
 敵ノ巡洋艦隊ハ直ニ側方ニ避ケタリ鎮遠ハ其ノ  
 巡洋艦ト共ニ左舷ノ方向ニ和泉ハ右舷ノ方向ニ  
 消失シ並置ヲ先頭トセル一隊ハ當初左舷ニ向テ  
 進ミシカ其ノ後大ナル速力ヲ取り我艦隊ノ針路  
 ヲ横断シ横列ニ開進セテ針路ヲ東北ニ取り去リ

廿七年海戰史

海軍

タリ	然レホモ之ヲ代リニ午代田及午早ノ兩邊洋艦ハ	左艦ニ現ハレ而レテ我艦隊カ正午其ノ針路ヲ北	東六十度ヨリ北東ニテ五度ニ變セシコトヲ東郷	提督ニ報スルコトヲ得タリ	隊形ノ不確定	艦隊カ隊形ヲ變更セシ後右ハ一線ノ單縱陣ヲ以	テ戦闘ヲ行ハシコトニ決心シタリト認ムルヲ得	ヘカリキ敵ハ何時此場ニ來ラレヤモ測リ難カリ	シナリ然ルニ午後十二時三十分艦隊ハ更ニ隊形	ヲ變更セリ(第十六號附圖)第一裝甲艦隊ハ十五	長(二千七百米)程右艦一第二裝甲艦隊ハサレテ左	艦ニ向ヒタリ此際此隊ハ自己ノ針路ヲ横断シ而
----	-----------------------	-----------------------	-----------------------	--------------	--------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------

0417

レヲ氷雷ヲ敷設セルノ疑アル一小船ヲ避クタリ  
 艦隊司令官カ本末第二装甲艦隊ヲモ縦列ニ編入  
 スルノ意圖ヲ有セルコト明クナリキ是ヲ以テ初  
 ノ左ノ信號ハ與ヘラレタリ曰ク「第一及第二装甲  
 艦隊ハ右八點ニ旋回セヨ」速力十一節ト然ルニ夫  
 レヨリ十分ノ後第二装甲艦隊ヲ未タ其ノ旋回ヲ  
 始メサルニ先タ左ノ信號ハ此隊ニ與ヘラレタ  
 リ曰ク「前命令ハ之ヲ取消ス針路ハ北東二十三度  
 ト  
 同時ニ艦隊司令官ハ其ノ注意ヲ巡洋艦ノ移動ニ  
 向ケカクルヘララスト信セリ  
 スウオロフコリハ左ノ信號與ヘラレタリ曰ク「ス  
 ウエートラナハ右舷ニ方リ運送船ノ掩護ニ任ス

へしト今ヤ艦隊ハ運送船及小艦ヲ之ニ算入スル  
 コトナク茲ニ縦列ヲ編成シ是等ハ相梯次セリ  
 左縦列ノ先頭艦ヲスリヤ<sup>一</sup>ハ右縦列ノ後尾艦  
 アレ<sup>一</sup>ルト齊頭面ニ立チタリ(第十七號附圖)  
 此ノ如キ戰鬥隊形ハ之ヲ適當ノモノト編成難キ  
 ナリニ縦列ハ軍ニ大ナル困難ヲ以テ左舷若リハ  
 右舷ニ向テ旋回スルヲ得へし然ルニ搜索勤務ノ  
 不完全ニシテ敵ノ主力カ何レノ方面ヨリ来ルハ  
 キカノ全ク不明ナリシカ爲メ我ニアリテハ旋回  
 ニ準備セラルヘカヲサリセナリ  
 加之左縦列ノ先頭艦ニ一人ノ提督ニ座衆スル  
 コトナク艦隊司令官ノ次席ナルモノガトテ提督  
 ハ縦列ノ後尾ニアリタリ而モ同提督ハ艦隊司令

官ノ計畫ニ就テ是ニ知ル所ヲナリキ同提督ハワ  
シフオシニ灣ニ於テ少時司令官ト會合セル外電モ  
之ト相見ルコトナリキ又前記ノ會見ニ於テハ  
談話ハ一語モ戦闘ニ及フコトナカリキ彼ハフエ  
ルケルガム提督ノ死去セシコトヲモ知ラザリキ  
尚又オスリヤードハ先頭艦トモテ全ク不適當ナ  
リキ何トナレハ其ノ艦首ハ水線邊ニ於テ装甲セ  
ラレテアツサリヒマツタリ

日本搜索艦ヲ其ノ儘放置スルハ雷  
ヲ得サル所ナリキ

約一時間ノ間日本ノ搜索艦ハ悉ク消失セリ是レ  
何時其ノ本隊ノ現出スルヤモ測リ難キコトヲ最  
モ能ク證スル所ナリキ蓋シ我ニアツテハ此時ヲ





見ルヲ得ルニ過キナリキ然レトモ我巡洋艦ノ優  
 良ナル動作ノ爲メ敵カ二十哩ノ距離ニアリニ  
 拘ラス余ハ其ノ位置ヲ審ニセラルコト恰モ之ヲ  
 目睹スルカ如カリキ此ノ如クミラ余ハ未タ之ヲ  
 目撃セサルニ先タ午敵ノ戰鬪線カ第一及第二波  
 羅的艦隊ノ全部ヨリ成リ而シテ七隻ノ商船艦ハ  
七巡ハ運ハ送病院船ト認メタラ弟ヲ伴ヘルコトヲ熟知セリ  
 又余ハ敵艦カ二線ノ縦陣ヲ以テ航進ニ主力ヲ  
 右縦隊ノ先頭ニ進メ巡洋艦ヲ其ノ後方ニ位置ニ  
 而シテ全艦隊ハ針路ヲ東北ニ取り十二節ノ速力  
 ヲ以テ走レルコトヲ熟知セリ是ヲ以テ余ハ余ノ  
 主力ヲ以テ午後二時沖ノ島ノ近傍ニ於テ敵ヲ攻  
 撃シ而シテ左縦隊ノ前衛ニ對スル攻撃ヲ以テ戰

開ヲ開始スルコト決心セリト  
 是ニ於テ左ノ疑問ヲ提起セカレハラス曰ク  
 敵ツレテ此ノ如ク精確ニ打算セシムルコトヲ始  
 クコト能ハサリレバト此間ハ之ヲ否定セサルハ  
 サラサルハレ  
 抑、搜索勤務ハ敵ニ就キテハ成ルヘク多ク聞キ自  
 己ニ就キテハ成ルヘク多ク知ラレシメサルヲ以テ  
 肝要トス此場合ニ方リ艦隊ヲ對馬海峡ニ向テ航  
 進スルコトヲ秘密ニ洩スルハ明カニ不能ノ所ナ  
 リキ又我ハ敵ノ主力ヲ我艦隊ノ航路ヲ遮キラシ  
 カ為ノ時機ニ後ニス恰モ其ノ最モ適當ト認メ又  
 ル地點ニ現出スルコトヲ期セサルハカラザリ  
 キ敵ノ主力ニ接近シ而シテ断又ス之ニ関ヒテ詳

細ナル情報ヲ與ヘ得ニ程久シク其ノ通信ニ保持  
 ス一キハ我巡洋艦ニ取リ極メラテ困難ノ所ナリキ  
 此任務ヲ達セシニハ我巡洋艦ハ餘リニ弱勢ナリ  
 其ノ編成内ニハ一隻ノ裝甲巡洋艦ナキニ及レ  
 日本艦隊ハ此ノ如クモノ八隻ヲ有セリ然レトモ  
 日本艦隊カ對馬海峡ニアルコトハ露國艦隊司令  
 官ノ自ラ言フ所ニ據レハ早ク既ニ其ノ識レル所  
 ナリキ彼カ日本艦隊ヲ分割セシメ之ヲ惑ハシメ  
 又之ヲシテ久シク海上ニ留マルニ至ラシメ以テ  
 之ヲ疲ラシムルコトニ就キ何等ノ手段ヲ講セリ  
 リヒテ以テ彼ハ益自ラ斯ク推定セカレハカラサ  
 リシナリ  
 然レトモ我搜索艦ノ動作スヘキ範圍ハ元來大ナ

リキ「エ」レ「イ」グ「ア」ウ「ロ」ラ「ス」ウ「エ」ト「ナ」ジ「エ」ム「チ」  
 ニ「ド」グ「イ」ズ「ム」ル「ド」及「ウ」ラ「ル」ヨ「リ」成「ル」一「隊」(遠「慮」  
 ナ「カ」ラ「爾」餘「ノ」補「助」迎「洋」艦「ハ」餘「リ」一「早」ノ「分」違「セ」ラ  
 レ「テ」毫「モ」利「用」セ「ラ」ル「ハ」コ「ト」ナ「リ」キ「ハ」其「ノ」速「力」  
 大「ナ」リ「シ」カ「爲」メ「危」險「ナ」リ「艦」隊「ヲ」離「レ」ア「ル」ニ「免」分  
 ナ「ル」獨「立」ヲ「有」セ「リ」此「隊」ハ「全」ク「艦」隊「ヲ」離「レ」數「時」間  
 之「ニ」先「セ」ス「ル」コ「ト」ヲ「得」ヘ「カ」リ「キ」果「シ「テ」然「リ」ニ「テ」  
 ラ「レ」ニ「ハ」日「本」艦「隊」ハ「之」ヨ「リ」免「レ」ニ「カ」爲「メ」其「ノ」全  
 迎「洋」艦「ヲ」使「用」セ「サ」ル「ヘ」カ「ラ」ヤ「リ」ニ「ナ」ル「ヘ」シ「此」條  
 件「ノ」下「ニ」於「テ」ノ「ミ」艦「隊」ニ「取」リ「テ」ハ「其」ノ「午」前「十」一  
 時「マ」ラ「ノ」間(夜「間」ニ)之「ヲ」以「テ」進「ミ」タ「ル」ト「同」一「ノ」隊  
 形「ヲ」取「ル」ヲ「得」ヘ「カ」リ「キ」  
 若「シ」此「間」ニ「日」本「艦」隊「ノ」急「襲」ニ「逢」ラ「リ」ニ「テ」ラ「シ」

0425

エハ之ヲ殘滓ト認メカレハカラス航進間ノ水雷  
 攻撃ハ概テ其ノ効力小ナルヲ以テ場合ニ依リ源  
 ノ之ヲ顧慮スルヲ要セザルナリ然レトモ此事々  
 ルヤ一定ノ限度ヲ然ルニ我艦隊ハ實ニ此限度  
 ヲ越スルヲ其ノ取リタル隊形(總テノ燈火ヲ點シ  
 ツ、三縱列ヲ以テスル)ハ敵ヲモテ勢ト其ノ水雷  
 攻撃ヲ成功セシメザルハアラザリキ日本艦隊カ  
 之ヲ行ハザリシハ單ニ天候ノ不利ナリシカ爲メ  
 ナルヘシ  
 上文ニ記セルカ如キ編組ノ一搜索隊ハ艦隊ニ先  
 ニセシテヲラシニ日本搜索艦ノ視察ハ明カニ之  
 ヲ妨ケ又ツラルルノ大装置ハ日本艦隊ノ總テノ無  
 線電信装置ヲ害シ以テ日本搜索艦ノ報告ヲ妨ク

ルヲ得ヘカリキ果シテ然ラハ東郷提督ハ取ニ前  
 日主カヲ以テ投錨シ終夜海上ニ留マリ又西海峡  
 ノ監視ノ為メ夜間水雷艇ヲ派遣セラルヘアラハ  
 リシヲリ此事タルヤ天候不良ノ為メ水雷艇ニ取  
 リ其劣甚大ナル一ノ且恐クハ大ナル海損ヲ招キ  
 シヤルヘシ恰モ此荒海ニ於テ我ハ夜間運送船ヲ  
 以テ浦潮ニ向テ通過スルノ試ヲモ企テ得ヘカリ  
 キ何トヲレハ若シ之ヲ後方ニ送ラサランニハ必  
 スヤ滅亡ニ瀕マレムヘキヲ以テナリ若シ又逃返  
 ノ途ナカラレニハ何時スリトモ之ヲ沈没セシム  
 ルヲ得ヘカリキ

艦隊カ對馬海峡ニ迫ツキレトキ免ニ前我ハ運送  
 船ヲ二十乃至三十海里ノ後方ニ送還セサルヘカ

0427

ラサリキ此事タルヤ最後ノ瞬間ニ於ラヌ之ヲ爲  
 レ得ヘカリキ而エラ若シ正面前ニ我巡洋艦ヲ遮  
 幕アリエテラシニハ日本艦隊ハ是ノ前記ノ事ヲ  
 知ラサリエナルヘシ  
 我巡洋艦ニシテ十一時及十二時ノ間ニ親取外ニ  
 出ラタル日本巡洋艦ヲ追ヒエテラシニハ直ニ日  
 本艦隊ノ主力ニ遭遇セシナルヘシ之ニ對シ我巡  
 洋艦ハ恐クハ多少ノ損害ヲ以テ退却セサルヘカ  
 ラサラシナルヘシ然レトモ此ノ如クニシテ艦隊司  
 令官ハ何時如何ナル方向ヨリ敵ノ来ルヘキヤヲ  
 審カニセシナルヘシ實際彼ハ敵ニ就キ是ヲ確知  
 スルコトヲナカリキ是レ艦隊カ敵ノ主力ノ現ハレ  
 ヲル瞬間ニ臨ミ新ニ行ヒタル隊形變換ノ最モ能

ク證スル所ナリトス是レ恰モ午後一時三十分ノ  
事ナリキ敵ノ主力ハ右舷ニ見ユ而シテ我艦隊ノ  
針路ヲ横断セシカ為メ大ナル速カヲ以テ走り  
リ

敵ノ主力ノ現出ニ際ニ行ハル隊  
形變換

日本艦隊ノ此運動及其ノ来リタル方向ハ明カニ  
我艦隊司令官ノ豫期ニ合セリキ是ヲ以テ日本  
艦隊ノ主力ノ見ユル瞬間ニ方リ彼ハ更ニ他ノ  
隊形ヲ取り始メタリ此隊形ハ即チ艦隊カ一時間  
以前(十一時十五分ヨリ十二時三十分マテ)取り  
ル所ノモノナリトス  
東郷提督ノ現出セシ後始メテスウオロフヨリ左



ノ信號與ヘラレタリ曰ク第一装甲艦隊ハ左八點  
ニ轉回セヨト然ルニ此隊カ未タ第二及第三装甲  
艦隊ノ線ニ違ヒタルニ先タチ敵ハ既ニ我針路ヲ  
横断シ始メタリ今ヤ新ニ一信號與ヘラレタリ曰  
ク第二及第三装甲艦隊ハ單縱陣ヲ作レト之ト同  
時ニ第一装甲艦隊ハ以前ノ針路ニ向ヒタリ

會戰ニ於ケル第一戰ノ價值

全海戰史ハ一海戰ニ於テ第一戰カ甚大ナル價值  
ヲ有スルコトヲ證明セリ全戰ノ運命ハ實ニ之ニ  
依リ通常決スルモノトス是レ固ヨリ當然ノ事ナ  
リトス地形ノ影響ヲキカ爲メ海戰ニ於テハ全兵  
力ヲ一時ニ侯用セ而シテ別ニ豫備隊ヲルコトヲ  
シ最モ能ク第一戰ニ準備セル者ハ初ヨリ極メテ

著大ナル優勢ヲ占ムル所ニシテ此優勢ハ其後ニ  
 至リ殆ト毎ヒ之ヲ均齊スル能ハサル所ノモノナ  
 リトス  
 左ニ露國一將校カ千八百九十八年サンジヤゴ附  
 近ノ會戰ヨリ抽出セル推斷ヲ掲クヘシ(セルスエ  
 ー、ズボルニツク今八百九十九年第五十一號)曰  
 ク射撃速カ小ナル舊式砲ニアリテハ戰鬥間自己  
 ノ缺點ヲ知リ之ヲ矯正レ最初ノ昏迷ノ後再ヒ回  
 神スルヲ得ルノ自由アリ然レトモ其ノ効力偉大  
 ナル新式遠射砲ニアリテハ其一旦行へル過失ハ  
 忽チ災害ヲ醸シ戰鬥ノ初ニ於ケル一見顯著ナラ  
 カル優勢ハ數分間ニ忽チ偉大ナル勢力ヲ逞カシ  
 又戰鬥準備ニ關スル一過失ハ忽チ全潰亂ヲ惹

0431

起スルニ至ルハキナリト  
 射撃ニ際シ射撃教練及工術的補助料(距離測量器  
 照準機等)ハ殊ニ遠距離ノ戦闘ニ方リ大ナル關係  
 ヲ有スル所ナリキ然レトモ射撃ノ成績良好ナラ  
 リルニ関スル主要ナル原因中ノ一ハ世人ノ往々  
 忘却スル所ナリ是レ何ナリヤト云フニ戦闘ノ最  
 初ニ方リ我ニ比シ正確ナル敵ノ集中射撃ナリ多  
 數ノ死傷者發生セル大矣若干軍艦ノ落伍ハ兵員  
 ニ打撃ヲ與ヘ其ノ教育ノ優良ナルニモ拘ラス之  
 ヲヒテ射撃上ノ好成績ヲ收ムル能ハサラシムル所  
 ナリ是ニ及ビ戦闘ノ初ニ於ケル一成果ノ如ク勇  
 氣ヲ鼓舞シ勢力及注意ヲ増進スルモノハ他ニ之  
 ヲ見ス以テ軍ニ兵士ノ教育スルヲ以テ是レソト

ナサス最高指揮官ハ善良ナル教育ヲシテ完全ニ  
 其ノ効力ヲ發揮セシムルニテ戰況ヲ作出スルコト  
 ヲ解セサルニカサルナリ  
 集進スル敵ノ戰鬪列序ノ整然タルヲ見ハ此事ノ  
 ミニテ兵員ハ具ノ士氣ニ大ナル打撃ヲ被ルモノ  
 トス又一定ノ作戰計畫ナクシハ總テノ指揮官ハ  
 勢ヒ多少ノ狼狽ニ陥ラサルニカラルナリ敵ノ  
 旗艦ニ向テ射撃ヲ集中スヘシトハ既ニ訓示セラ  
 レタル所ナリ然レトモ我諸艦カ蜿蜒タル第一  
 ノ長線ヲ造リ敵カ前方ニ於テ我針路ヲ横断セル  
 一方リ如何ニ敵カ射撃ヲ實施スヘキヤ此事タル  
 ヤ戰鬪線ノ中央ヨリスラ不能ノ所ナリキ況ヤ後  
 尾ニ於テオヤ何人ニ第一装甲艦隊カ如何ニ動作

スハヤヤヲ知ラリキ他ハ輩ニ之ヲ育從セサル  
ハカラサリモナリ獨斷專行ハ許可セラレサル所  
ヲリキ

露國艦隊ハ承表如何ニ第一戰ヲ  
行ハサルヘカラサリシカ

露國艦隊ヨリモ尚一層教育不良ナル衆組員ヲ有  
スル尚一層弱勢ナル艦隊ニアリテハ戰鬪ノ開始  
ヨリシテ最近距離ニ接邊ニ爲シ得ル限り不規則  
ナル格闘ヲ行ヒ會戰ヲ局部的諸戰鬪ニ分解スル  
ヲ以テ明カニ有利トナシタリ是ニ操縦及射撃ノ  
成績上多少均齊ナル機運ヲ作出スルノ唯一ノ手  
段ニシテ又敵ノ一艦ノ殲滅ヲ以テ自己ノ一艦ノ  
喪失ヲ償フヘキ唯一ノ希望ニシテ尚又全兵力ヲ

廿七八年海戰史

海軍

同時ニ戦鬪ニ使用セ而シテ艦隊ノ一部カ無氣力  
ニ他ノ部分ノ殲滅ヲ傍觀スルコトヲ避クルカ為  
メノ唯一方法ナリトス此無氣力ナル傍觀ハ衆組  
員ノ精神ニ恰ニ一大打撃ヲ與ヘサルヘカラサリ  
モナリ  
今ヤ露國艦隊ハ此ノ如ク動作スルヲ得セヤト云  
フニ決シテ然ラス日本艦隊ハ優勢ヲ占メシテ以  
テ此ノ如キ事ヲ水泡ニ歸セシムルヲ得タリ然レ  
トモ實際ニ於テハ是レ明カニ可能ノ所ナリナリ日  
本艦隊ハ一ノ過失ヲ行ヘリ然ルニ我艦隊ハ之ヲ  
利用セヌ又毫モ之ニ準備シテアラリナリ  
東郷提督ノ計畫ハ極メテ單簡ナリナリ彼ハ其ノ優  
越セル速力ヲ利用シ露國艦隊ノ前面ヲ横切リ而

此際敵艦ヲ始メ其ノ先頭諸艦ニ射撃ヲ集中  
 セシメテ此計畫ハ或ハ條件ノ下ニ於テノニ實施シ  
 得ヘキ所ナリキ針路ノ變換ニ際シ敵ノ突破ヲ防  
 カシカ爲メ東郷提督ハ既ニ頗ル著大ナル距離ニ  
 於テ其ノ運動ヲ實施セカシムヘカラサリキ尤モ日  
 本艦隊ハ敵ヲ追ヒ再ヒ之ヲ超越スルコトヲ得ヘ  
 キモ此場合ニ於テハ敵ノ全兵力ハ一時ナリトモ  
 戦闘ニ加ハルコトヲ得ヘカリキ此計畫ノ弱點ハ  
 恰モ針路ノ變換ニ存セシヲ以テ此變換ハ急ニ得  
 ル限リ速ニ(即チ旋回ニ依リテヨリモ轉回ニ依リ  
 之ヲ行ハカシムヘカラサリキ  
 免ニ南地ノ機動ヲ以テ對抗ニ得ヘカラサリキ如

一ノ機動ナルコトヲ是ヲ以テ例ハ露國艦隊  
 ハ日赤軍ノ取リタル機動之際ニ其ノ優勢ヲ著シ  
 ヲ弱メシカ爲ソ軍ニ横列ニ於テ位置スルヲ要セ  
 然レトモ横列ハ困難ナル隊形ナリトス此隊形  
 正ニク守ルコトヲ解スルハ極メテ必要ノ所ナ  
 リトス而シテ我ハ七個月ノ航海中毫モ之ニ練熟  
 スルノ機會ニ接セザリキ航達間此隊形ハ毫モ之  
 ヲ使用スルコトヲカリキ若モ此隊形ヲ取リシナ  
 ラレハ實際他ノ隊形ヲ取リタル場合ヨリモ一  
 層強カナル射撃ヲ發展スルヲ得ハカリシナルハ  
 然レトモ此射撃ト雖モ常ニ高敵ノ廣ク側面射  
 撃ニ劣リシタルニ  
 是ヲ以テ敵ノ動作ニ從ヒ直ニ其ノ全戦闘力ヲ戰

0437



關ニ使用ニ得ルノ自由ヲ確保セシカ爲ノ横列ヲ  
 應用スルヲ以テ唯一ノ手段トナスヲ要セリ若シ  
 敵カ海峡ヲ横切リ始メシテラレニハ我艦隊ハ同  
 一ノ機動ヲ實施スルヲ得ヘカリキ是モ拘ラス  
 敵ハ其ノ速力優勝ナルカ爲メ露國艦隊ノ先頭ヲ  
 包圍スルノ試ヲナスコトヲ得ヘカリキ然レトモ  
 此ノ如キ試ハ爲メニ日本艦隊ヲシテ一層迫ツカ  
 ヲルヘカラサルニ至ラシメ又露國艦隊ヲシテ尚  
 前方ニ向テ地通ヲ略スルヲ得セシムル所ニシテ  
 何レモ日本艦隊ニ取リ不利益ノ所ナリトス此ノ  
 如クシハ日本艦隊ノ戰鬪線ハ概ネ東西ノ代リニ  
 南北ノ方向ヲ取リシタルヘシ然ルニ實際ニ於テ  
 日本艦隊ハ自己ニ採リ一層有利ナル東西ノ方

向ヲ保持スルコトヲ得タリ  
 此外露國艦隊ニ取リ敵ノ計畫ヲ妨リ一キ尚他ノ  
 手段アリタリ我ハ敵カ我先頭ヲ側方ヨリ包圍ス  
 ルノ試ヲ為スニ際シ其ノ際避ク一カラサル敵ノ  
 接近ヲ利用シ新式戰艦ノ一隊ヲシテ大連カヲ以  
 テ進マシメ敵ノ先頭諸艦ノ線路ヲ遮ムヲ得ヘカ  
 リキ此場合ニ於テハ敵ノ先頭諸艦ハ或ハ最近距  
 離ニ接近スルカ或ハ回頭セサルヘカヲサリキ若  
 シ後者ノ方法ニ出ラリシ場合ニハ此運動ニ際シ  
 生スル停止ハ以テ爾餘ノ露國艦隊ヲシテ最近距離  
 ニ接近スルヲ得セシメテハヘシ  
 是等ノ手段ハ勿論一ニ戰鬪力及速力ノ點ニ就テ  
 露國艦隊ヲシテ優勢ヲ占ムルニ至ラシムヘカラ

0439

サリキ此優勢ハ日本艦隊ノ白ムル所ナリキ是ニ  
モ均シス是等ノ手段ハ兩者ノ機運ヲ幾分カ均齊  
スルニ與カルコト大ナリシナルニ然ルニ我ニ  
於テハ敵ノ機動ヲ妨クヘキ何等ノ試ヲ為サザリ  
シヲ以テ勝利ニ對スル日本艦隊ノ本表ノ好望ヲ  
甚レク増大セシメタリ

我ハ敵ノ過失ヲ利用セス

我ハ毫モ前記ノ手段ヲ採ルコトナカリシカ敵ハ  
却テ我ヲ助ケタリ敵ハ我ニ與ワルニ接近シ而シ  
テ我ニ取り有利ナル時點(即チ戦闘開始ニ方リ)  
於テ一ノ接戦ヲ行フノ好機會ヲ以テセリ東郷艦  
隊カ既ニ我針路ヲ横断セシトキ我ハ恰モ其ノ隊  
形ヲ變換スヘツ始メタリ然レトモ同提督ハ明カ

二兩者ノ速カヲ正シノ算定セスレテ餘リニ遠ク  
 走リタルヲ以テ射撃ヲ開始スルコト能ハサリキ  
 此ノ如クシテ彼ハ最も迫リ位置セルスウオロフ  
 及十網長(千八百米)ノ後方ニ於テ梯隊ノ先頭ニ航  
 進セルオスリヤービニ對シ其ノ全艦隊ノ廣キ側  
 面火ヲ集中スルノ第一回ノ機會ヲ逸セリ此時機  
 ハ日本艦隊ニ取リ殊ニ有利ナリシナルニ何ト  
 ナレハ我第一裝甲艦隊ハ恰モ隊形ノ變更ヲ企テ  
 エラシマヤリ  
 今ヤ東郷提督ノ我艦隊ノ左舷ニ進ミト聞キ彼ハ  
 轉回ノ代リニ旋回ヲ行ヘリ是レ戰鬪ノ其ノ後ノ  
 經過ニ於テ引續キ應用セル所ナリキ前記ノ如ク  
 レテ彼ハ露國艦隊ノ戰鬪諸艦ヲレテ其ノ速カノ

十一乃至十二節ナルニモ拘ラス三十二鋼表(五千  
 八百米)ノ距離ニ接近シ自ラ應射スルコト能ハリ  
 ル時機ニ於テ敵ヲミテ射撃ヲ開始スルノ機會ニ  
 接セシメタリ(第十八號附圖)果ニ然リミナラニ  
 ニハ東郷艦隊ノ諸艦ハ日本艦隊ノ旋回點ニ益接  
 近ニ得ヘキ我艦隊ノ火線ヲ通過セカハ一カラサ  
 リミナリ東郷提督ハ自ラ其ノ機動ノ巧妙ナラサ  
 リシヲ辯護シテ曰ク尋テ我主力ハ暫時西南ニ進  
 ミタリ是レ敵ヲミテ我主力ノ恰モ敵ニ向テ突進  
 スルモノト思惟セシメカ爲ノナリキ二時五分  
 露國ノ報道ニ據レハ一時五十分我ハ東ニ向テ轉  
 回(實際ハ旋回)ヲ行ヒ我正面ヲ變ヒ而シテ斜ニ敵  
 ノ前衛ニ向テ進ミタリ戰鬪開始ノ際ニ於ケル狀

況ハ此ノ如カリキト

實際東郷提督ハ遠ク其ノ目標以外ニ出ラ針路ノ

變更ニ際シ時間ヲ失ヒタリ此瞬間ハ我艦隊ニ取

リ頗ル有利ノ所ナリキ第一装甲艦隊ハ單ニ高速

力ヲ取リ而シテ東北ニ於テ東郷艦隊ノ航路ヲ遮

ラレカ為メ前進スルヲ要セリ此場合ニ至ラハ東

郷提督カ最近距離ニ接近スルハ其ノ避クヘカラ

サル所ナリキ轉回ヲ行ヒ北方ニ回頭スルハ今ヤ

不能ノ所ナリキ何ヤナレハ既ニ旋回ノ始マレル

ヲ以テナリ他ノ方向(右舷)ニ針路ヲ變換セシムハ

同ニク我艦隊ニ密接スルニ至ラサルヘカラサリ

キ

第一装甲艦隊ト同時ニ第二装甲艦隊ハ高速力ヲ

取リ不ボガトフ提督ノ艦隊ヨリ離レ敵ノ旋回點  
 二向テ前進スルヲ要セリ此場合ニ於テハ我ハ其  
 ノ射撃ヲ恰モ旋回中ナル敵艦ニ集中スルヲ得而  
 シテ第一隊ハ旋回ヲ終レル敵艦ヲ遂次ニ射撃ノ  
 下ニ取ルヲ得一アリキ異ヒテ然リモテテハニハ  
 日本艦隊ノ戦闘線ハ停止シテ混亂ニ陥リ斬クモ  
 第三裝甲艦隊モ亦接近スルノ機會ヲ有セシナ  
 スヘシ總テノ巡洋艦モ亦此點ニ向テ急行シ而シ  
 テ運送船ヲハ其ノ運命ニ委セサルヘカヲサリキ  
 又運送船ハ日本巡洋艦リ尚後方ニアリテ而シテ  
 其ノ十分乃至十二分ノ後始メテ露艦ニ達シ得ヘ  
 ン時機ヲ利用セリルヘカヲサリキ斯クモテ此戰  
 闘ハ不規則ナル接戦トナリ水雷ヲ發射シ又恐ノ

廿七八年海戰史

海戰史

ハ我艦ヲ敵艦ニ衝キ雷ツルノ機會ヲ有セシメテ  
 斯クシテ形勢ハ我ニ取リ極メテ有利ニ發展セシ  
 ヲルヘシ此ノ如キ接戦ニ際シ我諸艦ハ甚シク損  
 傷ヲ被リレテルヘキモ日本艦隊ハ雖モ全ク恙ナ  
 キハ到底不能ノ所ナリキ要スルニ日本艦隊ハ軍  
 ニ其ノ過失ノ為メニ此ノ如キ危機ニ陥リタリ然  
 レトモ此過失ハ我ノ之ニ責セザリシ所ニシテ而  
 シテ戦闘ノ具ノ後ノ経過中日本艦隊ハ再々之ヲ  
 為スコトヲアリキ  
 此ノ如キ機動ヲ實施セシカ為ゾニハ露國艦隊ノ  
 諸隊ハ獨立ニ運動ヲ實施スルノ權利ヲ有シ而シ  
 テ艦隊司令官ノ第一回ノ運動ニ由リ其ノ意圖ヲ

0445



素知レ得ヘキ程能ク艦隊司令官ト密接ナル關係  
 ニアラサルヘカラサリレ所ノ諸指揮官ノ之ヲ指  
 揮スルコトヲ要セリ然レトモ是カ為メニハ總テ  
 ノ有リ得ヘキ戦闘法殊ニ日本海軍ノ應用セル戰  
 術ノ研究ニ際シ常ニ見ル如キ一般ノ機動ニ就テ  
 屢々ニ熟談セサルヘカラサリキ然レトモ毫モ此  
 ノ如キ事ヲ而シテ第三隊ノ先頭ニハ死セリ一  
 提督アリタリ  
 然ルニ今ヤ露艦ハ實際如何ナル動作ヲ為セルヤ  
 第一装甲艦隊ハ大速力ヲ以テ北方ニ進ムノ代リ  
 ニ通常ノ速度ヲ以テ左舷ニ向テ弯狀ヲ描キシヲ  
 以テ其ノ場ヲ動クコトナカリキ第二隊ハ衝突ヲ  
 避クレカ為メニ速力ヲ減セサルヘカラサリキ而

レテ實際此瞬間ニ於テモ亦「オスリヤ」ヨリ左  
 ノ信號與ヘラレタリ曰ク「速カハ節」ト巡洋艦ハ運  
 送船ノ直後ニ於テ左舷ニ向テ轉回レ主力ノ戦闘  
 ニ専ラシムルコトナリキ此ノ如クモテ實際露  
 國艦隊ハ其ノ場ヨリ動カカリキ此狀況ノ下ニ於  
 テ露艦ノ開始セル射撃ハ露國艦隊ノ砲長ニ取リ  
 餘リニ大ナル遠距離ニ向テ行ハレ「最ニ近ク敵ニ  
 接セル」スウオロフハ三十二年網長(五千八百米)ノ  
 距離ニアリタリタルヲ以テ十五乃至十網長(二千  
 七百乃至千八百米)ノ距離ニ於テ日本艦隊ノ被ラ  
 レルヘカラサリシカ如キ命中ハ到底之ヲ達スル  
 コト能ハサリキ斯ル間ニ時間ハ経過セリ三笠ハ  
 轉回シ其ノ後方ニ於ケル第二及第三ノ軍艦モ亦

0447

然リキ而シテ數分ノ間ニ殺戮的彈雨ハ我旗艦ノ  
 上ニ注キタリ(第十九號附圖)三十鋼長(五吉米半)ハ  
 日本艦隊ニ取り其ノ砲彈ノ効力ヲ遲クシ得ヘキ  
 距離ナリキ短時ノ間ニ日本艦隊ノ戰鬪線ハ東北  
 ノ方向ニ展開シ而シテ我前衛ニ赤其ノ針路ヲ一  
 層右舷ニ向テ取りタリ敵ノ兩縱列ハ漸次ニ其ノ  
 針路ヲ東方ニ變シ而シテ不規則ナル單一縱列ヲ  
 形成セリトハ東郷提督カ其ノ報告ニ記セル所ナ  
 リ形勢ハ兩軍ニアリテ同等ノ觀アリタリ兩軍ハ  
 並行セルニ二線ニ位置セリ然レドモ彈雨ハ既ニ  
 將ニ其ノ効力ヲ呈セントセリ露艦カ射撃ヲ開始  
 シテ約十五分ノ後スツオロフ及「オスリヤ」  
 ニハ盛ニ火災起リ「オスリヤ」艦首ニ危険ナ

廿七八年海戰史

海戰史

一 損傷ヲ被リ其ノ艦首砲塔ハ粉碎セラレタリ  
 二 少オロフハ接近ニコトヲ試シトセシカ如カ  
 三 リシカ東郷提督ノ率ル全戦艦ノ廣キ側面火ニ中  
 四 アラレ大損傷ヲ被リタリロジエストウエニスキ  
 五 提督カ既ニ屢負傷セレ後スウオロフハ其ノ艦  
 六 機ヲ損シ二時五十分戦闘線ヲ離レサルヘカラサ  
 七 リキ(第二十號附圖)是ヨリ五分ノ後ホロダノモ一  
 八 時戦闘線ヲ離レ而シテアレクサシゲル第三世モ  
 九 突々タル火焰ヲ放テツ、之ニ從ヒタリ然レトモ  
 一〇 此兩艦ハ幾クモヤク真ニ整理セラレテ更ニ隊列  
 一一 ニ加ハリホロダノハ先頭艦トナリタラスウオロ  
 一二 フニ次ニ間ニナリオスリヤトハ甚シク偏重シ  
 一三 テ列ヲ離レサルヘカラスレテ諸人ノ眼前ニ於テ